

# もも管理特報 No. 2

平成29年3月21日  
みな穂もも振興会  
みな穂農業協同組合  
新川農林振興センター

## ○3月下旬～4月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
摘蕾	<ul style="list-style-type: none"><li>中庸な樹勢のもので全体の70%程度の蕾を落とす</li><li>主枝・亜主枝先端や伸ばしたい枝は全て摘蕾する</li><li>定植1～2年目の樹は全て摘蕾する</li></ul>	3月下旬～ 4月上旬		
人工授粉	<ul style="list-style-type: none"><li>花粉の無い品種（川中島白桃、なつき等）に対して実施</li><li>50%程度開花時および80%程度開花時に2回程度実施する</li><li>晴れた気温の高い日に行う</li></ul>	開花期 (1. 生育状況の開花予測を参照)		
灰星病・せん孔細菌病罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none"><li>落花期以降に症状が発見しやすくなる</li><li>症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する</li></ul>	開花期～落花期以降		
防除の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>散布ムラが生じないように丁寧に散布する</li></ul>	(2. 病虫害防除の (2) 参照)		

## 1 生育状況

3/21時点での「あかつき」の開花予想は右表のとおりです。

開花時期は、今後の気温により大きく変動することがありますので、計画的な作業に努めましょう。

表2 「あかつき」の開花予想

	開花始期	開花盛期
本年（予想）	4/12～13頃	4/14～15頃
平成27年	4/6	4/8
平年値	4/11	4/14

## 2 病虫害防除

### (1) 耕種的防除の実施について

#### 【灰星病】

- 花腐れ症状（花卉が褐色になり腐る症状）は見つけ次第切除し園地外で処分する。

#### 【せん孔細菌病】

- 芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑が疑われる枝は切除し、園地外で処分する。



↑ 花腐れ症状



春型枝病斑

## (2) 薬剤散布について

4月は、せん孔細菌病、灰星病の重要防除時期です。下記により、計画的な防除を実施して下さい。なお、下記の散布時期はあくまでも目安です。生育及び開花状況を確認しながら、適宜実施してください。また、適正な散布量により効果的な防除に努めましょう。

### 【結実樹】

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100% 当たり 薬剤量	散布量 %10a	防除実施日 (自己記入)
2	4/8~10頃 開花直前	せん孔 細菌病	ICボルドー412	30倍	3,333g	350	
3	4/18~20頃 「川中島白桃」 受粉後	せん孔 細菌病、 灰星病	アグリマイシン-100 ロブラール500アクア 展着剤 マイリノー	1,500倍 1,000倍 20,000倍	66g 100cc 5cc	350	
特 散	3月下旬~ 4月下旬 ※粗皮の粗くない 若い樹が対象	コスカシバ 日焼け防止	ガットサイドS	1.5倍	樹幹部及び主枝 (幹より50cmくら いまで)に塗布		

### 【未結実樹】

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100% 当たり 薬剤量	散布量 %10a	防除実施日 (自己記入)
2	4/8~10頃 開花直前	せん孔 細菌病	ICボルドー412	30倍	3,333g	100	
3	4/18~20頃 「川中島白桃」 受粉後	せん孔 細菌病	アグリマイシン-100 展着剤 マイリノー	1,500倍 20,000倍	66g 5cc	100	
特 散	3月下旬~ 4月下旬 ※粗皮の粗くない 若い樹対象	コスカシバ 日焼け防止	ガットサイドS	1.5倍	樹幹部及び主枝 に塗布		

※縮葉病の被害葉は、見つけ次第芽ごと摘み取る。

※ガットサイドS(成分MEPを含む殺虫剤)の樹幹処理は、収穫後~収穫まで、すべての割合わせて1回のみとする。

農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！

### 樹齢別散布量の目安

植付け後年数	10アール当たり 散布量(リットル)	植付け後年数	10アール当たり 散布量(リットル)
1年目	50~100	4~5年目	300
2~3年目	150~250	6年目以降	400

※上記の散布量の目安は、5月中旬以降の目安である。5月上旬までの葉の展開があまりしていない時期は、これよりも少なくなる(2-(2)の散布量参照)。

### 3 摘蕾

#### (1) 実施時期

花蕾が丸くふくらみ、その先端にピンク色が見え始めた頃から、花卉がややふくらんできた頃（3月下旬～4月上旬頃）。

#### (2) 摘蕾程度（表1参照）

○主枝、亜主枝の延長枝（先端から50cm程度）は全摘蕾

○全体の70%程度の蕾を摘蕾

○強摘蕾（富山型もも栽培体系、図参照）を実施する場合は90%まで摘蕾

※花粉のない品種は50%程度

表1 摘蕾で残す蕾の数の目安

果枝長	慣行	富山型もも栽培体系
短果枝	先端付近に1～2個	先端付近に1個
中果枝	中央部に2～3個	中央部に1～2個
長果枝	中央部に4～8個	中央部に3～4個

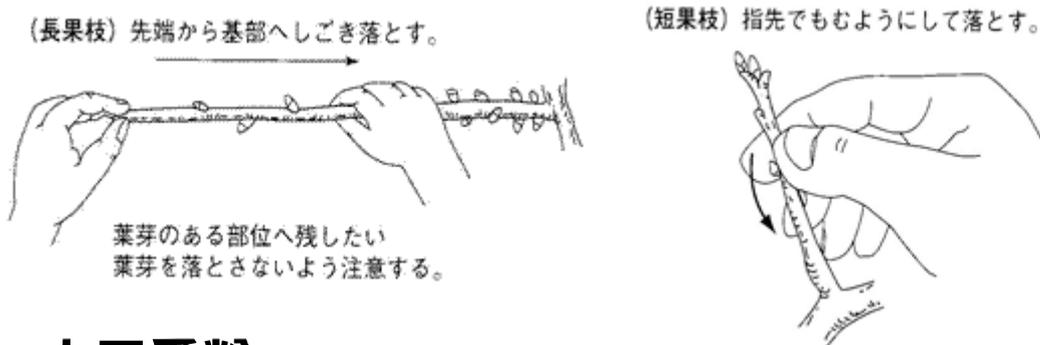
富山型もも栽培体系における摘蕾は、通常、予備摘果で残す果実数と同じ蕾数を残す

#### (3) 留意点

○1～2年目の苗木の花芽はすべて摘蕾する。

○葉芽を傷つけないように注意する。

#### 【実施方法（やり方）】



### 4 人工受粉

花粉のない品種（「川中島白桃」「なつき」等）では人工受粉が必要です。受粉は開花率が50%程度と80%程度に達した時を中心に、2回程度実施してください。

#### 【実施方法（やり方）】

①花粉がある品種（開花・開薬しているもの）に毛バタキ（鳥の羽根等、花粉が付きやすいものが適当）等で軽く触れる。

②毛バタキに花粉（黄色い粉）が付着するのを確認し、花粉のない品種のめしべを同じ毛バタキで軽くなぞる。

